

RESAS

を分析してみよう

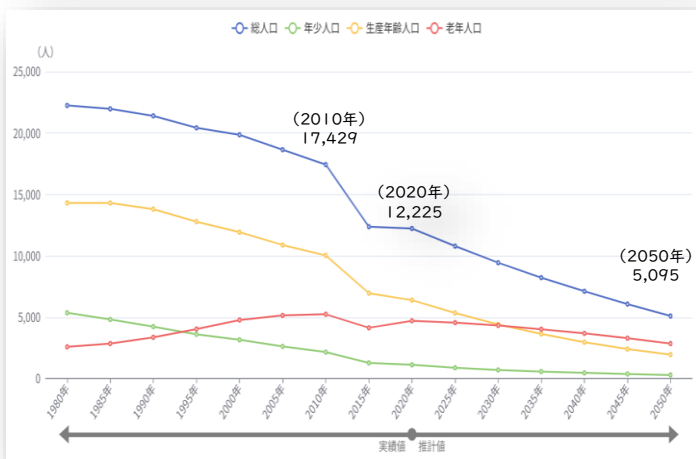
宮城県 南三陸町

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口

<https://resas.go.jp>

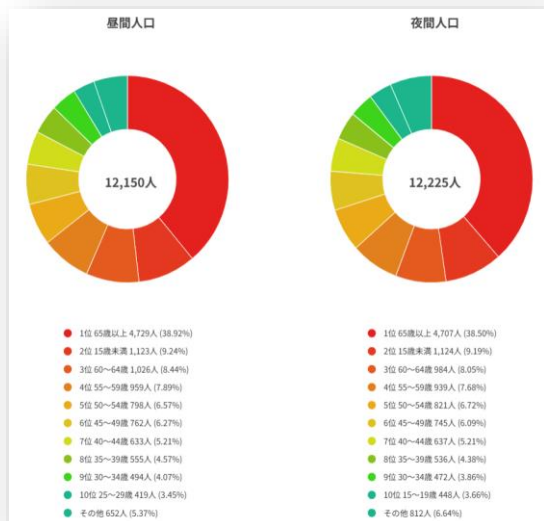
RESAS



*人口マップ→人口構成分析→人口推移

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2020年の人口ピラミッドは「つば型」であるが、2050年については「逆富士山型」ともいえる様相を呈している。老年人口の割合をみると、2020年の38.5%から2050年には56.02%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の52.25%から38.25%まで減少する見込みである。

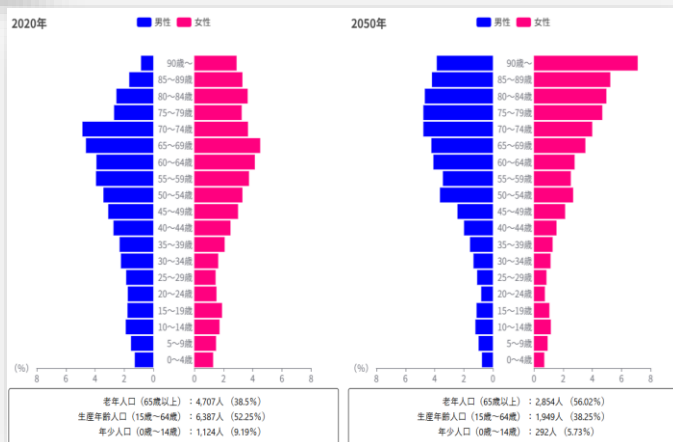


*人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

年齢別人口推移

2020年の人口は総人口12,225人。10年前（2010年）の17,429人と比較して減少しており、今後も減少傾向が続く見込みである。

また、年齢別に将来の傾向をみると、生産年齢人口の減少が顕著であり、老年人口割合が増加する傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。



*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

滞在人口（2020年）

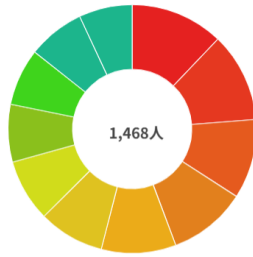
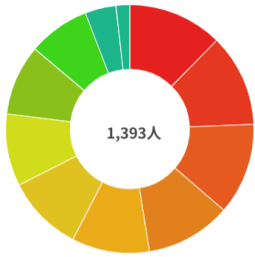
昼間人口と夜間人口を年齢階級別構成割合で示したグラフである。

南三陸町の昼間人口は12,150人、夜間人口は12,225人であり、昼夜間人口比率99.39%と、通勤・通学等での人口流出がやや多いことがわかる。また、昼夜ともに65歳以上の滞在人口がもっとも多い結果となっている。

人口

流入者数

流出者数



流入・流出者数（2020年）

南三陸町内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流出超過数が75人と町外への流出者がやや多い地域であることがわかる。また、流入者数は55～59歳、流出者数は50～54歳がもっとも多くなっている。

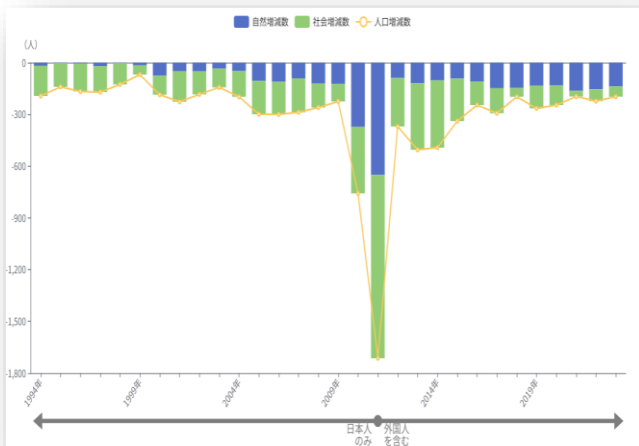
*人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

年齢階級別純移動数時系列分析

年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に高校進学時（10～14歳→15～19歳）、就職・大学進学時（15～19歳→20～24歳）に町外へ人口が流出する傾向にある。その後、年代ごとに増減の波はあるが、大きな流れとしては横ばいの傾向がみられる。（東日本大震災後の2010年～2015年は全階級で流出している。）



*人口マップ→社会増減分析→人口移動



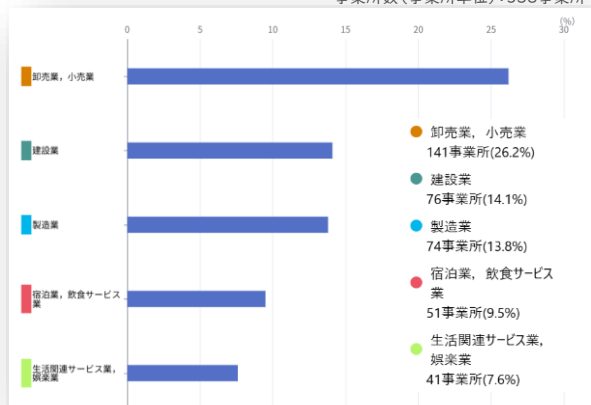
*人口マップ→人口増減分析→グラフ

自然増減・社会増減の推移

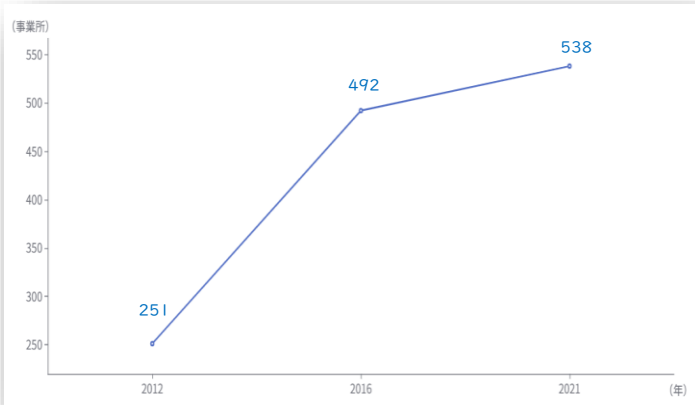
自然増減数（出生数から死亡数を引いた値）と社会増減数（転入者数から転出者数を差し引いた数値）の推移を示したグラフである。社会減、自然減の傾向が続いており、全体の人口としては、減少している。

産業構造

事業所数(事業所単位):538事業所



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

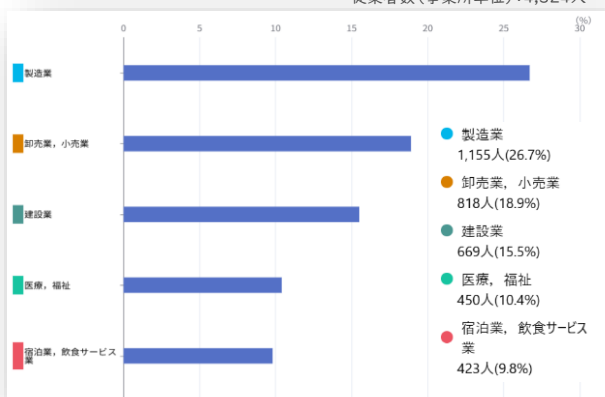
事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の141事業所で、全体の26.2%を占めている。その後「建設業」の76事業所14.1%が続く。

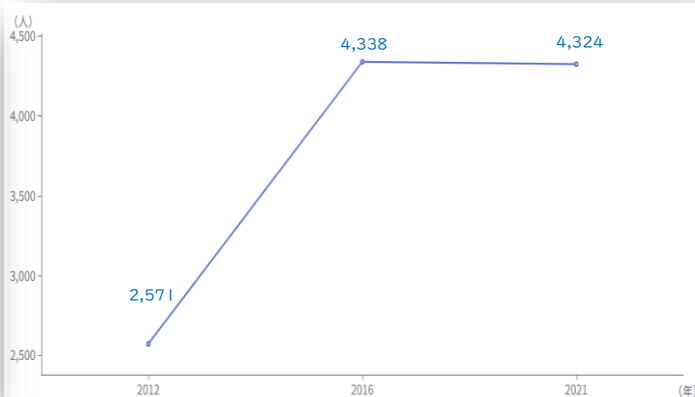
事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移をみる。2021年は538事業所であり、5年前の2016年は492事業所だったので、比較すると9.3%増加している。

従業者数(事業所単位):4,324人



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)



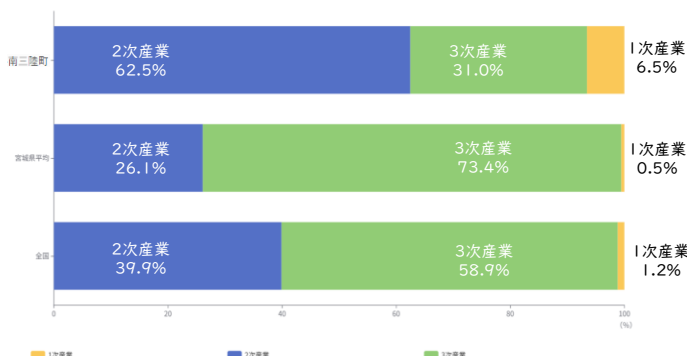
*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」の1,155人で、全体26.7%を占めている。その後「卸売業、小売業」の818人の18.9%、「建設業」の669人の15.5%が続く。

従業者数の推移 (2021年)

従業者数の推移をみる。2021年は4,324人、5年前の2016年は4,338人だったので、比較すると0.3%減少している。



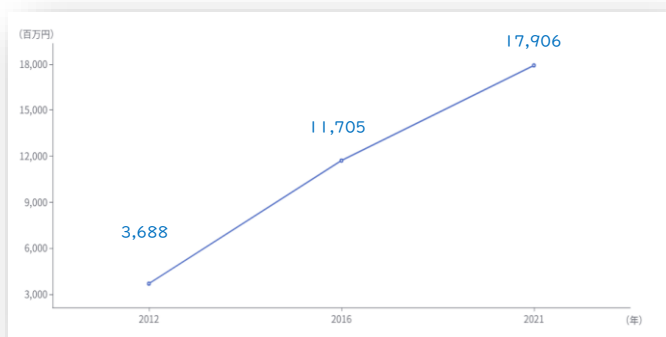
*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構成

地域内産業の構成割合 (2018年)

南三陸町の生産額を指標に産業の構成割合を全国および宮城県と比較したグラフである。2次産業の割合が62.5%であり、全国の39.9%と比べて高い。一方、3次産業の割合は、31.0%と全国の58.9%に比べて低い。

*1次産業・・・農業、林業、漁業など
 *2次産業・・・製造業、建設業、工業など
 *3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



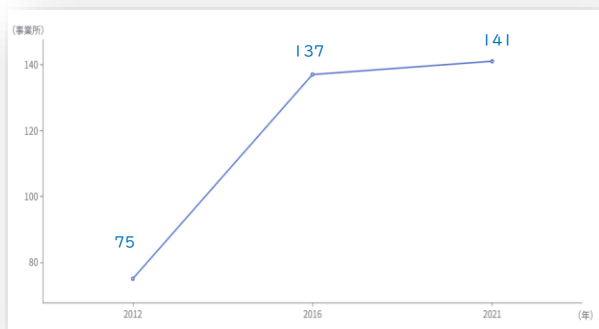
*産業構造マップ→産業構造→推移

事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は141事業所、2012年は75事業所であり、2012年と比較すると、88%増となっている。

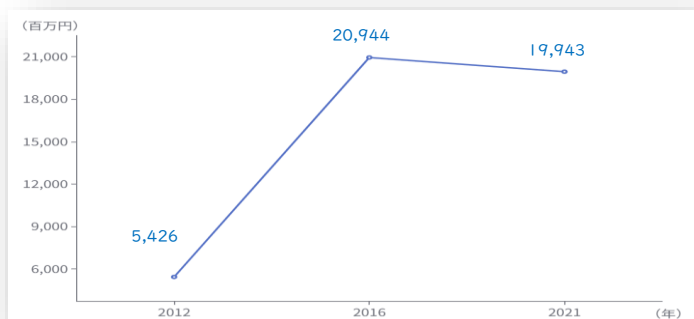
売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は17,906百万円である。9年前の2012年と比較すると3,688百万円なので、385.5%増である。



*産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



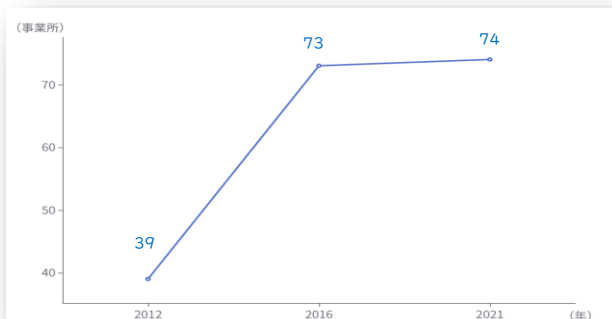
*産業構造マップ→産業構造→推移

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は74事業所、2012年は39事業所であり、2012年と比較すると、89.7%増となっている。

売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、19,943百万円である。9年前の2012年と比較すると5,426百万円なので、267.55%増である。

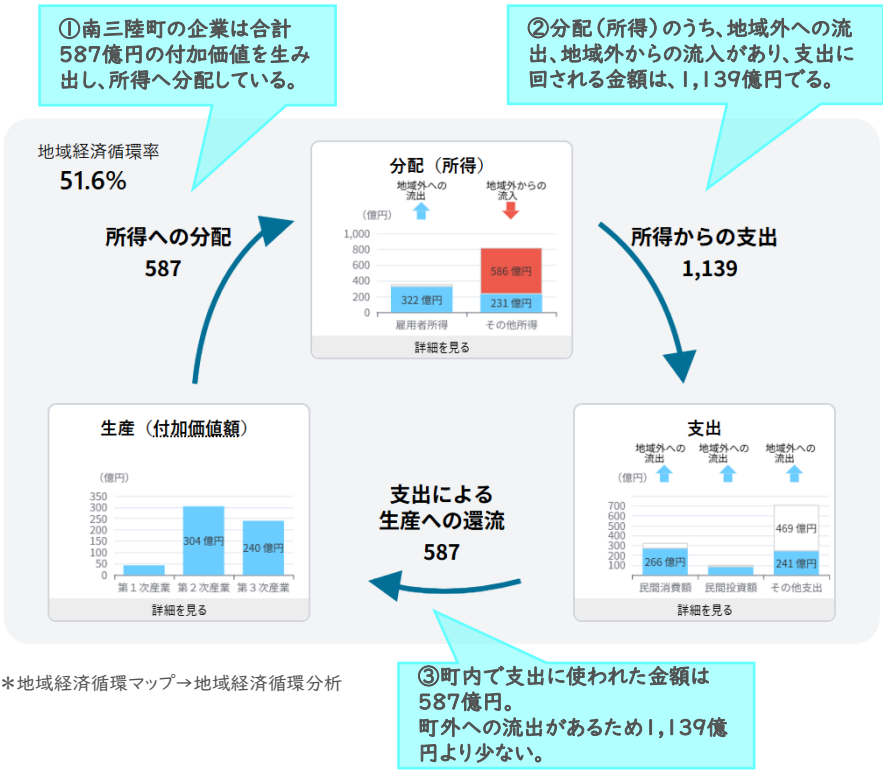


*産業構造マップ→産業構造→推移

地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。南三陸町では、「建設業」の付加価値額がもっとも大きく、「製造業」、「卸売業、小売業」の順に続く。



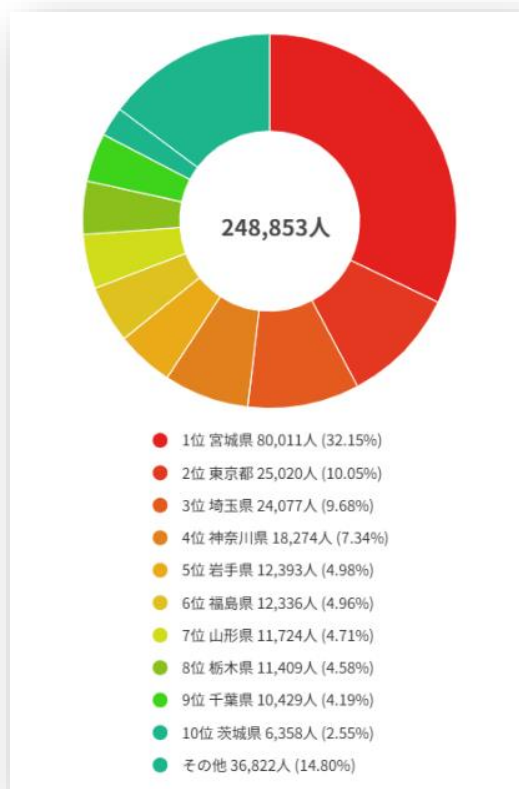
「その他」に含まれる産業、データを秘密・欠測している産業

産業	労働生産性(千円/人)	従業員数(人)	付加価値額(百万円)
学術研究、専門・技術サービス業	2,038	26	53
教育、学習支援業	500	6	3
複合サービス事業	-	4	X
不動産業、物品賃貸業	-	10	X
金融業、保険業	-	5	X

※産業構造マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

居住都道府県別の延べ宿泊者数 （日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。宮城県の32.15%と最も多く、東京都の10.05%、埼玉県の9.68%が続く。県内を除くと関東圏からの来訪者が多いことがわかる。

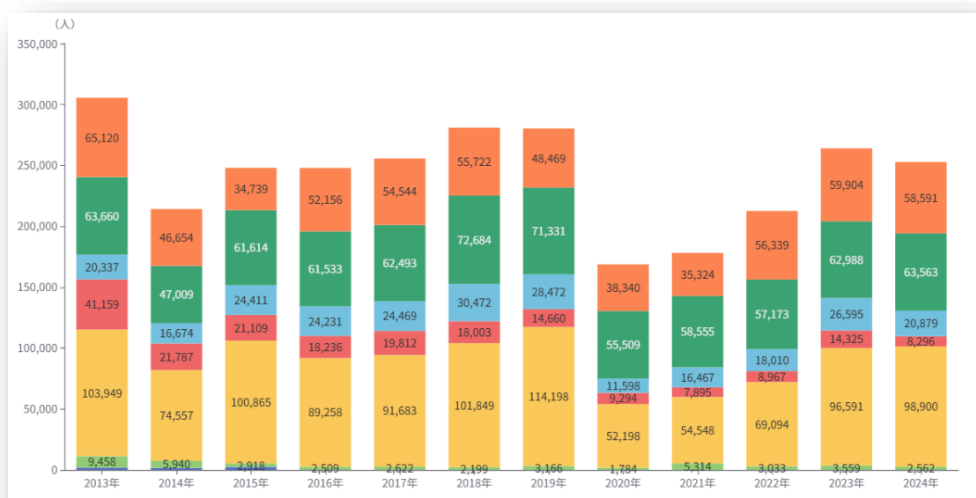


*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっとも多いのは、「男女グループ」の98,900人、「夫婦、カップル」の63,563人、その後、「家族」の58,591人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別

発行：南三陸商工会

〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田14-27

TEL: 0226-46-3366 FAX: 0226-46-5335

URL: <http://www.m-shokokai.com/>

